

九州内の聴覚障がい特別支援学校(聾学校)がつながる ネットワーク構築事業

熊本県立熊本聾学校

熊本聾学校は、聴覚に障がいのある幼児児童生徒のための県内唯一の特別支援学校です。九州内でも、福岡県を除けば聴覚障がい特別支援学校（以下、聾学校と記す。）は、各県に1、2校しかありません。そのため、専門性の継承は大きな課題となっています。

そこで、今年度、文部科学省の「特別支援学校ネットワーク構築事業」を受け、県の枠を超えた広域的な取組みを行い、専門性の向上や学力向上を目指した授業づくりの研修を進めています。今年度は、3回の合同研修を本校で実施する予定です。既に、1回の研修を終え、その後、九州地区の各聾学校で実践に取り組んでいるところです。

以下に、ICTの活用を中心とした交流や授業実践の取組みを紹介します。

1 テレビ会議システムによる生徒間の交流

(1) 九州内聾学校との交流

聾学校によっては、学年に1、2人の児童しかいない学級もあります。他学年の児童と楽しく遊ぶことはできますが、学習時に意見の交流することは難しい状況があります。そこで、事前に聾学校間（担任同士）で連絡を取り合い、同じ単元を同時期に学習し意見交換をしました。

例えば、小学部の国語の単元では、物語の続きを自分で作り、絵を描いて発表をします。テレビ会議システムを使って、児童それぞれが絵を見せながら、自分の作った物語を発表することができました。

また、他県に住む児童生徒たちと手話での会話をとおして、自分たちが日常使っている手話の一部が熊本弁で、隣の県であっても通じない表現があることなどを知ったり、ご当地クイズを出したりして、交流を深めることができました。高等部の生徒では、数学の問題を解き合う様子も見られました。



上2図 佐賀や沖縄の聾学校との授業交流

(2) 外国の聾学校との交流

実践的英語力を高め、英語への関心意欲を高めるために、オーストラリアの高等学校の聾教育課程の生徒達とテレビ会議を通じて、英語で交流しました。

右図 下部に文字を入力して会話ができる画面



聞こえなくても、英語の筆談で外国と交流ができます。国が違くと、手話も違います。あらかじめ用意しておく文もありますが、相手からの質問にとっさに書く英語での返事に躊躇することなくペンを走らせる英語筆談、生徒たちの英語への興味関心もアップします。本校では、多くの生徒たちが英検にもチャレンジしています。



上図 オーストラリアのアデレード高校とのクラス交流

2 フラッシュ型教材の活用

○学力向上を基礎基本の徹底から

聾学校や盲学校等では、個々の障がいの状況に応じた配慮をしながら、小・中・高等学校の学習指導要領に示してある内容に準じた教育を行っています。

聾学校においても、学力保障・進路保障は課題であり、学力向上に向けた授業の充実が求められています。

そこで、基礎基本の習得の徹底を目指し、フラッシュ型教材に焦点を当て、研修を進めてきています。第1回目の研修では、富山大学の高橋先生を講師として本校にお招きし、フラッシュ型教材の作成と活用をテーマに、研修会を開きました。現在、授業で活用するとともに、作成した教材データを広く全国の聾学校や難聴特別支援学級で活用できるように eTeachers*へデータを集約しつつあるところです。eTeahcers では、現在「小学校」と「中学校」の2つのカテゴリーしかありませんので、「特別支援教育」というカテゴリーを作成し、広く活用していただけることを期待しています。これは、通常学級に在籍している配慮を要する児童生徒や学力の厳しい子どもたちにも良き補助教材になるものと確信します。



上2図 第1回合同研修実施時の様子



* eTeachers とは、「フラッシュ型教材活用実践プロジェクト」として、データを共有できる web サイト。